

婚活相談 どこが安心?

結婚したい人たちの活動「婚活」が盛んになり、結婚相談所や情報サービス業の利用者は60万人にのぼる。業界全体で年間に寄せられる苦情や相談は3千件。信頼して相談できるのはどこか。その目安として、質のよい事業者を認証しようという「マル適マーク」ができたが、対抗する動きも出て、入り乱れている。

(河合真実江)

愛知県に暮らす女性(48)は再婚したくて去年大手の結婚情報サービス会社に入った。「大手なら会員が多いから、さまざまな条件の人がいて出会いも期待できると思ったんです」

入会時に見せられた写真はイケメンばかり。「年収800万円以上の会社員や医者が多い。あなたなら半年で結婚できる」と、セールストーク。でも入会して会った15人のなかに、意中の人はいない。自分の写真が断りもなく、男性会員の勧誘に使われていた。不信がつつた。

「入会の時は親切」

いまのパートナーに出会い、半年で退会。情報提供料や解約料など計23万円かかった。「私は出会いがあったから収支トントンでしょう。でも、個人情報がいかに大切に守られているのか。入会の際は親切だけれど、後はほうっておいてお金をとる、という姿勢でした」

経済産業省によると、結婚相手紹介サービス会社は4千所近くあり、市場規模は500億円。女性が登録したような大手結婚情報サービス型のほかに、仲人がお見合いをセッティングする仲人業・結

優良マーク乱立気味 苦情年3000件

婚活相談所や、会員がネット上で検索して希望の相手と交際するのを支援する型がある。

業界への苦情は絶えない。国民生活センターに寄せられた苦情・相談(05年4月～06年11月)の3409件を同省が07年に分析したところ、解約時についてが42・8%で最も多かった。事業者の対応や返金に関する内容も目立つ。

そんななか、第三者が業者をチェックして基準にもとづくマークを与えよう、という動きが業界で加速している。

昨年末、初めて発行されたのが「CMS」というマル適マーク。仲人らを養成しようとして、07年に学識経験者らがつくったNPO法人「日本ライフデザインカウンセラ協会」(東京)が認証機関になった。審査のポイントはサービス内容と価格の明確さ、契約書や説明、個人情報保護の整備、顧客窓口の設置など。原口博光理事長は「個人情報管理をしっかりしてトラブルをなくし、安心して婚活ができる環境をつくりたい」と話す。

書類審査のうえ、事業所ごとに現地で審査。費用は15万7500円、マークの使用料が月8400円かかる。3年間有効で、店頭や広告に示せる。

昨年の第1回審査で、マークを

自分に合うか 料金適正か 見極めを

「婚活時代」の共著があるジャーナリスト白河桃子さんに、結婚相談所や情報サービス会社の見極め方を聞いた。

料金体系が成功報酬制かそうでないかで大きく分かります。いわゆる仲人さんの多くは成婚したらお金を



白河桃子さん

受けとる成功報酬制だとききます。昔はお見合いオバサンのイメージが強かったのですが、30代40代の仲人さんも増えました。ほとんどが仲人さん同士の情報交換の組織に属し、会員の情報をデータベース化しています。そのなかでお見合いを組むのです。多くがホームページを持っていますから個人情報保護法を守っていることや料金やクーリングオフについて明示していること、会員数や男女比を

開示しているかチェックして下さい。仲人さんはキャラクターがそれぞれ。結婚観が合うかも大事です。たとえば「40歳女性で大卒、高収入です」と言ったとき、「結婚市場では条件はよくない。難しいけれどがんばりましょう」と、耳に痛いことも言っていて一緒に歩くパートナーになってくれるか。大手情報サービス会社は入会金や年会費、月会費などを前払いするところが目

立つ。入会時の営業スタッフと担当カウンセラーが異なることも多く、会員数も数万単位なので、積極的にアドバイスを求めなければ厚く面倒はみてくれません。高いお金を払ったのだから黙っていても結婚できると思ったら間違いです。自治体や青年会議所、大学の同窓会など紹介の場合は広がっています。自分に合うところを選びましょう。雰囲気にもよりますが、入会しないように。法外なお金を要求するところはおかしいと思して下さい。



仲人土試験ではNPO法人理事の弁護士らが面接員。「なぜこの仕事をしたのか」などの質問がとんだ大阪市内

「仲人土」の認定も

一方、仲人業者の育成をするNPO法人全国結婚相談所教育センター(大阪)は仲人の資格「仲人

士」の認定を始めた。「仲人業はほとんどが個人営業で、成功報酬で地道にやっている。情報を提供する結婚情報サービスと違い、人柄と経験で仲をとりもっているんです」と中西圭司理事長は自負する。だが、昔ながらのやり方に加え、個人情報保護などにも目配りしてほしいと資格を考えた。

仲人土の条件は法律を守り、成功報酬制で親切であること。同センターの養成講座を受けた人を対象に、書類審査、論文を含む筆記試験、面接がある。受講から認定までにかかる費用は1万3千円で、5年間有効だ。1月に初の試験があり、22人が認定された。

年間30組の縁をとりもち、「カリスマ仲人」と呼ばれる兵庫県西宮市の山田由美子さんも仲人土の資格をとった。その調子でカップル誕生のために働きなさい、とお墨付きをもらったようなもの。名刺にさっそく「仲人土」と入れた。

与えられたのは36都道府県の176事業所。ただし、大手のツヴァイやサンマリエの事業所などに偏った。マークをとった結婚相談所の関西プライダル(大阪府東大阪市)の杉山貞之代表は「信用度をお客さんにアピールしたい。審査料も宣伝費と思えば高くない」と話す。

CMSマークに対して、大手のオーネットなど12社・団体は「審査料が高い」などと反発。「信頼性の高い認証制度創設に向けた」委員会をつくった。「多くの事業

者が参加できる費用にし、業界あげてのマークをつくりたい」と23日に認証機関を設け、年内に別のマークを出す予定だ。「業界内で主導権を握ろうとする感情的な争いではないか」とみる関係者もいて、乱立気味の認証制度。同省サービス産業課は「マーク同士が競争しあい、よりよいものになってほしい。どれを選ぶかは消費者の判断で、勝ったほうが残っていくのだらう」と予測。「マークがあるから結婚しやすいと誤解しないほしい」と強調する。